

平和資料館

前田館長が初案内

ルワンダ大使・米総領事に

アフリカ・ルワンダのエミール・ルワマシラボ駐日特命全權大使(55)と大阪・神戸米総領事館のダニエル・ラッセル総領事(52)が6日、平和記念資料館(広島市中区)を訪れ、前田耕一郎新館長(57)が就任後初の案内役を務めた。

大使は2度目の来館。ルワンダでは94年4月7日に民族対立から大虐殺が起き、犠牲者は100万人ともされている。この日に合わせ、広島市のNPO法人ピースビルダーズ・カンパニーが広島に招いた。

医師の経験が長いルワマシラボ大使は「白血病の患者はどれだけののか」「原爆の影響で、どんながんが発生するのか」などと前田館長に質問していた。

昨年8月に着任したラッセル総領事は広島に来るのは初めて。日本語が得意なため、前田館長は通訳を介さずに説明をした。米国の外交官では昨年7月にシーファー駐日



ルワンダの大使に広島の様状を説明する前田耕一郎館長(左)＝6日午後、平和記念資料館で

大使が訪れて以来だ。

前田館長は「米国は原爆投下の当事者で、今なお大量の核兵器を保有している。いやだろが、きちんと言いたい」と説明に力を入れ、被爆者の体験記を手渡した。

ラッセル総領事は展示を見終わった後、「米国は日本と協力して平和や核拡散防止に取り組んで

いる。戦争を防ぐことが外交官の私の使命と感した。日本に住む2人の子どもにも見せたい」と話した。(宮崎勇作)